

令和4年度 第1回 尼崎21世紀の森づくり協議会 議事録

日時 令和4年10月26日（水）14時00分～15時30分
 場所 尼崎の森中央緑地 茅葺き民家

■資料の確認／事務局

【資料】

資料1	「尼崎21世紀の森構想」の取組状況
資料2	尼崎21世紀の森づくりSDGs推進ガイドブック
資料3	SDGs推進ガイドブックの今後の活用について
資料4	その他報告事項
資料5	尼崎21世紀の森づくり行動計画の見直しについて
資料6	行動計画の見直し案（具体的取組の新旧対応一覧表）

【参考資料】

- 参考資料1 尼崎21世紀の森づくり協議会設置要綱
 参考資料2 令和3年度第3回尼崎21世紀の森づくり協議会議事録

■会長による開会の挨拶

コロナ禍でできなかったが、ようやくこのような形で会議を行えるようになった。対面での開催がやはり良いと、しみじみ感じている。ぜひ活発なご意見をいただきたい。最近では淀川河川公園から多くの依頼が来る。今週は慶野松原で南あわじ市の文化財担当から名勝指定の仕事の依頼があった。淀川河川公園では、私が植物の先生となって市民参加で小学生から高校生までもを対象とした自然観察会を実施した。そういったことから、国でも兵庫県で実施しているような市民参加の取り組みがやっと動いてきたな、というように感じているので、ぜひ良い事例としてこれからも見せていただければと思う。

「公園緑地」の11月号の特集が「市民協働による公園の再生」というタイトルとなっている。その巻頭言で尼崎の森について紹介したので、国の方からも見学など来られるかもしれないので、よろしくお願ひしたい。これまで積み上げてこられた市民参加型の取り組みをどう展開していくかを考える、ちょうど良いタイミングになってきていると思う。ぜひ頑張っていたいただきたい。

また、兵庫県園芸・公園協会と共に検討しているのだが、県立公園すべてで名産品を作ってはどうかということを考えている。三田にある有馬富士公園ではうどの栽培を始めた。去年の今頃にはうどの根の刈り取りも実施している。そういったことが、各県立公園でできれば面白いのではないだろうか。また、住民の参加がないとできないといったことも取り入れていただきたい。ここでは尼いもや大豆も栽培されているので、うまく展開できれば面白いと思う。そういったことに、これまで培ってこられたノウハウがモデルになると思うので、洗練させていけるように皆さんと共に取り組んでいきたいと思う。

■報告事項 「尼崎21世紀の森構想」の取組状況

○資料説明（事務局）

資料1 「尼崎21世紀の森構想」の取組状況をもとに、以下の内容を事務局より説明。

- 1) 坂本花織選手への花束贈呈式について（報告）
- 2) 「尼崎スポーツの森」のウクライナ水泳チーム支援について（報告）
- 3) 「尼崎21世紀の森構想エリアツアー」の延期について（報告）
- 4) 物流系企業との連携に向けた取組状況について（報告）
- 5) 「尼崎21世紀の森構想」策定20年記念事業について（報告）

○意見交換

委員 : 3回の記念事業それぞれの参加者数については記載があるが、3つすべてに参加された方の数が分かれば教えていただきたい。

事務局 : 100人程度と予想していたが、実際には40～50人であった。

■報告事項 尼崎21世紀の森づくりSDGs推進ガイドブックの今後の活用について

○資料説明（事務局）

資料2 尼崎21世紀の森づくりSDGs推進ガイドブックおよび資料3 SDGs推進ガイドブックの今後の活用について、をもとに事務局より説明。

○意見交換

委員 : 前回の会議において、SDGs推進ガイドブックについて、紙媒体にするのか、デジタルとして随時更新していくのかの議論があったかと思う。その時々で取り組みを認められたものについては更新し、広く広報していく必要があると思うが、どのように考えているのか。

事務局 : 新たな取り組みについては追記し、紙媒体ではなくホームページに掲載していく予定である。商工会議所で説明会をさせていただいた際に、どの企業でもSDGsの取り組みを実施されており、ガイドブックへ掲載してほしいという声が多かった。そういった声を積極的に拾い、ガイドブックを充実させていきたいと考えている。

委員 : その時に、選定の基準や、掲載する際の考え方については共有しておいた方が良い。例えば、掲載前に協議会のメンバーには意見を伺うなどといった形で認めていただいた上で掲載する、といった段階を踏むべきではないかと考える。

委員 : 尼崎21世紀の森づくりとどのように関連しているのかが柱になると思う。森づくりに協力していただけるような形でうまく掲載できればよいのではないかな。

委員 : 企業の方々に対しても、我々が実施していることをお伝えすることもできると思うので、そういった関係性が持てると大変助かる。SDGsという言葉で、新しいハードルを超えていけると期待している。

- 会長 : 例えば、メールなどで協議会メンバーに照会して、返信がなければ認めていただいたものとし、といった程度でも良いと思うので、積極的に認めていただき掲載していただければ良いと思う。また、掲載された企業の方々には、尼崎21世紀の森づくりへさらに参画していただけるようなきっかけづくりとしてやっていっていただきたい。
- 事務局 : ただいまご意見いただいた方向性で進めていきたい。
- 委員 : ガイドブックのp17に記載の弊社関連の記事でイベントなど実施される際にSNSなどを用いて情報発信をするということで、その様子をご紹介させていただきたい。チャンネルフライデーや、11/2予定のモルック大会などについて、阪急阪神ホールディングスの公式ツイッターで発信させていただいている。フォロワー数は4万人強ほど登録があり、そういった中で情報発信をさせていただいている。
また、阪急阪神ホールディングスではサステナビリティ宣言を謳っており、その中で尼崎運河についても2~3万人の従業員向けにオンライン配信でご紹介させていただいていることをあわせてご報告させていただく。
- 委員 : 県民センターからでは情報の発信力が小さいという課題がある。公式ツイッターで4万人のフォロワーがいらっしゃるということはすごく魅力的なことであり、ぜひ今後もこちらからの情報提供を継続してさせていただきたい。また、阪神南県民センターでも独自にTwitterアカウントを立ち上げている。フォロワーはなかなか伸びないが、職員のモチベーション向上や、自分達の仕事について少しでも多くの人に知っていただきたいということで地道に情報発信しているので、そういったところとの協力もお願いしたい。
- 会長 : 企業向けの出前講座のようなことは考えていないのか。近年はガバナンスの問題で社員教育のチェックが各企業で言われているので、職員研修などの中に入れていただけるようなことをうまく企画してはどうか。
地球温暖化防止に関する計画の見直しが全国的に進められている。CO2の削減についても数値的なことを書き込まなければいけなくなっている。うまく位置付けることができれば、日本全体での動きの中でここがこれだけ貢献している、ということを示すことができればよいのではないだろうか。
- 委員 : 情報発信という点で、SNSを活用して、森づくりについて社員のみならずお客様への情報発信をできるだけしていきたいと考えている。森づくりについては尼フォレストの皆様へお世話になりながら関わらせていただいている。職員も森づくりへの関心は非常に高く、森のフェスタに家族連れで遊びに来たりもしている。そういったところでも引き続き貢献していきたいと考えている。
- 会長 : クズを活用したクリスマスリースづくりなども考えていただければと思う。配布資料の県庁でのSDGsの取り組み紹介に写っている方は、中央緑地の立

ち上げの際の担当で貢献された方である。その後、県庁でSDGsの取り組みを広げてくれている。県職員は匿名性の仕事ではあると思うが、このように貢献した人を表彰する制度があれば励みにもなるのではないか。そういったことをSDGsがらみで考えてはどうか、といったことも議論したい。

■報告事項 その他報告事項

○資料説明（事務局）

資料4「その他報告事項」をもとに、以下の内容を事務局より説明。

- 1) 養蜂巣箱設置について
- 2) 尼崎運河の再生に係る新たな取組みについて
- 3) 尼崎21世紀の森構想エリア内でのSDGs顕彰制度について

また、委員より養蜂移転についてご報告いただいた。

○意見交換

委員 : 2つ目の提案について、尼崎市の市民提案制度を活用して進めていきたいと考えているものである。尼崎運河にただひとつ流れ込んでいる蓬川から、尼崎運河にかけて何か楽しめることができないかということで提案させていただいた。NPO法人尼崎21世紀の森の中に尼崎チャンネルSUPというチームを作って活動している。2007年から10年間、「うんぱく」というものを開催させていただいていた。その後、子ども達向けのものについてはオープンチャンネルデイを、企業や大人向けにはチャンネルフライデーを2018年から実施している。

2018年に実施した運河サミットを開催した関係で、さまざまな運河を見る機会があった。綺麗な運河のあるまちは文化度が高かったり、住みやすいまちだったりすることが多く、環境を変えるということが大事だと感じた。これまでSUPで約300回程の清掃活動を実施してきた。大阪の大川で実施されている子ども向けの清掃イベントを尼崎でも実施したいということで、これも市民提案制度を活用して提案させていただいている。将来的には、アムステルダムで実践されている無人で動くボート「ロボット」を活用したゴミ回収ボードの導入も尼崎運河でできればと思っている。

会長 : 武庫川の上流にある6樋は未だ残っているのか。活用は考えられないか。上流の水源と農業用水などの水路まで結びつけることができれば良いのではないか。

委員 : 国道2号のあたりで水深50センチ程度しかないため、それ以北は動力船は難しい。蓬川は尼ロックで水を止めている範囲の面積は東条湖と同じくらいの水面積があるので、ぜひもっと市民へ開放していただきたい。

会長 : SDGs顕彰については、教育委員会がSDGs大賞という制度を作っているの

で確認していただきたい。顕彰の方法についても、子ども達との協働といったことにも展開しているので、着目点についても参考にいただき、ブラッシュアップしていただければと思う。

■協議事項 尼崎21世紀の森づくり行動計画の見直しについて

○資料説明（事務局）

資料5「尼崎21世紀の森づくり行動計画の見直しについて。」

○意見交換

委員：当初からアクセスが問題ということがある。キャナルフライデーの際も、市民から行きたいけどどうやっていけば良いか、という相談があった。自転車以外の方のアクセスが課題かと思う。その中で、資料6のP5、上から3行目で、「大規模イベント時等のニーズに応じた・・・」とあるが、具体的にはどういったイメージか。
また、重要湿地とは、どこか。

事務局：アクセス方策については、数年前にも協議会でお話しさせていただいたことと重複するところもあるが、尼崎市から阪神バスへ指定管理されており、以前は中央緑地までの路線バスがあったが、利用者が少なく路線として成り立たないということで、減便となった。しかしながら平日の通勤者利用はあるため朝夕は何便か残っている。しかし、中央緑地や各地でイベントを開催する際はバスがないと困るということもあるため、例えば多くの参加者が来場するような大きなイベント、例えば森の文化祭や森のフェスタをはじめとした集客イベント時に臨時バスを出して対応するということである。
また、重要湿地については、本日ご欠席の上月委員と事前にお話しさせていただいた際に、環境省の重要湿地に指定されており、渡鳥の生息地となっているため、もっとPRしていくべきというご意見をいただいたため、ここに盛り込んだものである。具体的な場所は、南堀運河の西端にあたり、末広ランプの少し北側である。

委員：海鳥が多いのは、そのあたりと、国道43号少し南側のエーリック前の少し浅瀬になっているところ、また、東堀の奥にも多い場所がある。

会長：重要湿地については、環境省の30by30との関連について議論を広げるとよい。保全も大事だが、30by30の認定も視野に入れて取り組めば、尼崎の森づくりの評価を上げることができる。

委員：資料5の改定の視点3の5つ目、大阪湾ベイエリアの一角としての尼崎運河への期待の高まりという点について、先日大阪府の吉村知事が発言されていた中で、夢洲や舞洲は大阪市内よりも尼崎市の方が近いということで、尼崎市、特に06地域と連携していきたいと発言されていた。逆に、尼崎市として、大阪市などどのように連携していくのか、また大阪府からこれら

に関してなにか話があったのかどうか、お教えいただければと思う。

- 委員 : 一番の問題は交通の問題である。船による旅客輸送は兵庫県と一緒に検討しているが、陸の交通については、万博協会を考えておられるのは路外駐車場ということで、尼崎市と堺市に大規模な駐車場を設けるということを考えている。場所は兵庫県で埋立を進めている東海岸町の敷地の一部を活用して3,000台の大規模駐車場を設置し、神戸方面からの車を一旦止めて、シャトルバスで会場へ、ということを検討している。尼崎市としては、せっかくなので万博だけではなく駐車場でのしかけづくりをして、尼崎や兵庫県の良いところをPRするとともに、少しでも市内の方へ寄っていただけるようなしくみを検討しているところである。
- 委員 : キャンピングカーなどで来られた方が宿泊できるようなことは考えておられないのか。
- 委員 : 地域住民のことも考えていただかないと、大庄地域は大変困ってしまう。
- 委員 : そのあたりのオペレーションについてはまだそこまで詰めていないが、地域の方々に対してはおっしゃる通りと考えている。
- 委員 : 駐車場で難しければ中央緑地も活用できるのではないか。自作のキャンピングカーなどを紹介するyoutuberもたくさん増えてきているので、宿泊機能も、整備が間に合うかどうかわからないが、良いと思う。中央緑地のPRにもなると思う。
- 委員 : 良いご意見だが、長く居座られてしまうというったことも想定される。地域の環境への配慮についても、先日ご説明に伺った際にもご指摘いただいたところであるため、万博協会へ伝えていきたいと考えている。
- 会長 : 高槻市では市バスは無料、市民企画のハイキングなどイベントがある際は増便してくれる。そういったことにシフトできるように、使ってもらえるようにするための訓練をうまく考えていただけると良いと思う。
ベイエリア内の尼崎市外の子供達達の環境学習への受け入れは是非実施していただきたい。広域連合では滋賀県が環境先進県として声を上げておられるが、そういった広域連合の動きもうまく活用していただければと思う。
舞洲でオリンピック誘致の際は、とても環境配慮型で計画であり、会場の緑化について相談もたくさんあった。そこで、例えば苗木を提供するなど、未来型の万博が先行しているのに対して、こちらから環境配慮について発信してみてもよいのではないだろうか。同じベイエリア内で苗木を共有しようとか、美しいストーリーがあれば、面白いと思う。

■閉会

以上